

平成30年度「特色ある学校づくり対策事業」の実践



佐世保市立浅子小中学校

所在地 佐世保市浅子町58番地

校長 加藤 尚美

児童生徒数 33名

学級数 6学級

(平成30年5月1日現在)



<学校教育目標>

9年間を通し 求めて学び 心身ともに
しなやかでたくましい 子どもを育てる

校訓	感動	優しく、礼儀正しく、感性の豊かな子ども
	自主	自ら進んで学ぶ子ども
	忍耐	最後までやり抜く子ども

<重点目標>

- (1) 心の教育（いのちの教育）を充実させるため、環境を整える。
（言語環境、掲示教育、環境整備、最大の環境である教職員自身）
- (2) 義務教育学校の特性を理解し、そのよさを生かした学習指導、生活指導に全職員で取り組む。

1 目的

卒業後の新たな環境においても、自信を持ってたくましく生き抜く力を持った子どもの育成

<確かな学力の育成>

- 義務教育学校の特色を生かした取組
 - ・後期課程職員による乗り入れ授業
 - ・9年間を見通したカリキュラム作成
- 朝の時間の活用
 - ・チャレンジ学習の充実
- 表現力及び言語活動の育成
 - ・読書活動の充実
 - ・発達段階に応じたNIE活動

<交流・体験の充実>

- 次代へつなげる
 - ・地元保育所や、地域との交流
- 郷土を大切に作る心を育てる
 - ・体験学習や奉仕活動
- 生命の尊さ、食の大切さを感じる
 - ・栽培活動の充実
- 豊かな心を育む
 - ・特別支援学校等との交流
 - ・デイケア施設との交流

2 実践内容

確かな学力の育成

〈後期課程職員による乗り入れ授業〉

義務教育学校としてのよさを生かしながら、9年間を見通した児童生徒の育成を行ってきた。その一つが、後期課程職員の専門的知識や技能を生かした前期課程への乗り入れ授業である。これまでも小中一貫校として行ってきた実績を踏まえ、本年度も国語、数学、英語、音楽の後期課程職員が、乗り入れ授業を行った。児童にとって、専門的知識や技能を生かした学習指導は新鮮で効果が上がっており、本年度の全国学力調査では、その成果が表れた。



〈外国語活動への乗り入れ授業〉

〈朝のチャレンジ学習の充実〉

毎週水～金曜日に実施する朝の活動の時間は、漢字や計算の練習、読解力をつけるためのプリント学習を中心とした「チャレンジ学習」を行い、計算力、語彙力、表現力の育成を図った。チャレンジ学習を継続して行うことで、基礎学力が向上した。また、毎月第1週の火曜日に実施している「あさごっこタイム」では、全校児童の前で詩の朗読や総合的な学習の成果等を発表する場を設定しており、表現力（話す・聞く）の育成に役立っている。



〈あさごっこタイム〉

〈表現力及び言語活動の育成〉



〈図書室の掲示コーナー〉

(1) 読書活動の充実

毎週金曜日に来校する学校司書が新着本や図書に関するイベントの紹介、子どもたちの読書意欲を高める工夫などを行なった。また、季節行事に関連した掲示物作成など、親しみもてる環境整備も進めてきた。10～11月の読書週間には、読書ビンゴ（物語や伝記など、色々な分野の本を読む取組）を実施した。その成果として貸出冊数も伸びており、全体的に読書量が増えてきた。

(2) 発達段階に応じたNIE活動

後期課程では、本年度も、朝のNIEタイムを月曜日と水曜日の週2回実施した。月曜日は、生徒が新聞を1紙選んで自由に読む時間とした。この活動は、知識・技能の習得だけでなく、主体的に学習に取り組む態度の育成にもつながっている。水曜日は「新聞スクラップ」と「コラム学習」に取り組んだ。「新聞スクラップ」では、事前に切り抜いておいた記事をプリントに貼り、新聞記事の要約と感想を書いた。「コラム学習」



〈後期課程NIEコーナー〉

では、記事の選定を教師が行い、添削をしてコメントを書いている。「新聞スクラップ」と「コラム学習」はNIEファイルに綴じ、生徒同士で交流できるよう教室前のテーブルに開いて置いている。生徒同士で、どんな記事を読んだかを話し合ったり、

記事についての意見を語り合ったりする姿もよく見られた。前期課程でも学年の実態に応じて実施している。子ども新聞の定期的な購読、新聞ノート作り、「〇〇新聞」作りなどを通して新聞への興味が高まり、表現力の育成に役立っている。

感動する心と表現力を育む交流・体験学習の充実

＜次代へつなげる地域や地元保育所との交流＞

本年度も保幼小連携の一貫として、浅子保育所との交流を定期的に行った。1年生が学校に慣れた6月に、来年度入学予定の園児を小学校に招待し、学校を案内したり、レクリエーションで一緒に遊んだりすることで、顔見知りになり、学校に対する緊張感を和らげることができた。また、砂の造形活動（二本松海岸で実施）や保育所のお遊戯会、節分の日豆まきへの参加、園児の招待給食などを重ねることで相互理解を深め、本校入学への不安を解消する一助となった。また、職員同士の話し合いもでき、情報交換や共通理解にも役立っている。

後期課程生徒は、11月1日に浅子保育所を訪問し、施設外周の清掃を行ったり、園児と遊んだりして交流を深めた。活動内容を生徒が主体的に計画・準備することで、ボランティア活動への関心も高まった。また、進んで行動できる力も身につけてきた。

9月には、あさなぎ大運動会（保育所や地域と連携）を通して地域との交流を深めることができた。コミュニケーションの機会が増えることで、地域の方々の児童生徒理解にもつながっている。



〈後期課程生徒による保育所訪問〉



〈あさなぎ大運動会〉

＜郷土を大切に作る心を育てる＞

周りを海に囲まれた本校校区は、海水浴場を有するなど、海洋自然に恵まれている。こうした自然を大切に作る心、そして、郷土を愛する生が参加）を実施したり、地域主催の二本松海岸クリーンアップ活動に参加したりした。釣り体験は、地域の方との交流の場ともなっている。クリーンアップ活動では、ふるさとの海のすばらしさと、それを守り続けることの大切さを学ぶことができた。また、11月18日には、健全育成協議会主催のもちつき大会が開催された。こうした地域活動に積極的に参加することで、豊かな自然や伝統の素晴らしさを見直し、郷土を大切に作る子どもの育成をさらに進めていきたい。6月には、いのちを見つめる強調月間の取り組みの一環として「献血教室」も実施した。



〈クリーンアップ作戦〉



〈献血教室〉



〈もちつき大会〉

＜生命の尊さ、食の大切さを感じる栽培活動の充実＞

例年、校内にある畑の一部を利用して、前期課程児童全員でたまねぎやサツマイモ栽培に取り組んでいる。苗植えから収穫までの一連の作業を実際に体験することで、農業を営む人たちの工夫について学ぶことができた。水をかけたり雑草を取ったりする活動を縦割班で行ったので、互いに助け合う心を育てることができた。また、収穫したサツマイモを使って芋料理にもチャレンジした。こうした一連の活動を前期課程の高学年児童が中心となり、みんなで協力して行うことで、一人一人が満足感、達成感を味わうことができた。また、親子で調理したり、会食したりすることで、日頃気づかない親の愛情にも触れることができた。



＜縦割班による芋ほり＞



＜親子で芋料理作り＞

＜豊かな心を育む特別支援学校やデイケア施設との交流活動＞

佐世保特別支援学校（肢体不自由教育部門）との交流を通して、子どもたちの社会性や豊かな人間関係を育み、コミュニケーション能力の育成を図るための活動を毎年行っている。本年度も、本校児童による出し物（合唱）、班ごとに分かれての自己紹介、ゲーム等を通して楽しく交流することができた。

また、小佐々町にあるデイケア施設との交流も実施し、歌の発表やゲーム等を通して高齢者とのふれあい活動を行った。



＜佐世保特別支援学校との交流活動＞



＜高齢者デイケア施設との交流活動＞